

九州北部豪雨災害支援活動



YMCA の取り組みとこれから

発生から 2 カ月

7月5日の九州北部豪雨から2カ月以上が経ち、メディア・マスコミに取り上げられる頻度が減ったことから、「復興」しつつあるように思われがちですが、まだまだ「復旧」の段階です。

- ・仮設住宅等での避難生活者 約1,200人（みなし仮設住宅含む）
- ・家屋全壊 288戸 半壊1,073戸 犠牲者37人
- ・農地や水路への土砂流入等による被害報告 1,900件以上

未だ被害調査が進んでいない地域、ケアが行き届いていない地域もあり、復興への道のりは長期化が予想されています。



YMCA がこれまで取り組んできたこと

YMCA は災害直後からさまざまな支援活動に取り組みました。

①募金活動

全国各地で発生直後から会員、学生、ボランティアリーダー、ワイズ、スタッフによる街頭募金等がおこなわれ、9月13日現在約4,000,000円が集められています。

②現地視察、支援物資搬送

西日本地区 YMCA が協働で現地視察と支援物資の搬送を実施。

- ・職員の現地視察 延べ6回（福岡県朝倉市・東峰村、大分県日田市）
- ・支援物資搬送 高圧洗浄機20基、ウエットティッシュ、タオル水15,000本、お茶10,000本、エナジーゼリー等（物資提供：コストコホールセールジャパン株式会社）



YMCA がこれから取り組むこと

長期的支援に向けて、西日本地区 YMCA で協力して、以下のことに取り組みます。

現地支援団体との連携と子どもたちのケア、キャンプの実施

- ・福岡県朝倉市や、大分県日田市の各地区で支援活動を行っている団体と連携し、被災している子どもたち、そしてその保護者との関係性を構築します。
- ・ユースボランティアリーダーと共に定期的にキャラバンで被災地域を回り、子どもたちとの交流を図ります。
- ・12月～2月に1泊2日または2泊3日で、被災地域の子どもの対象にトラウマケアを目的としたキャンプを実施します（会場：阿蘇 YMCA キャンプ場）。西日本地区各 YMCA よりリーダー・スタッフを派遣して対応します。
- ・以降、春キャンプ、被災から1年のキャンプ開催も検討します。

悲しい災害が九州北部で起きました。

しかし、そこから立ち上がろうという人たち、また、支えようとする人たちがいます。

これからは、現地で今も苦しんでいる人、特に弱くされている子どもたちとつながっていきます。

そして、子どもたちのこころが癒され、今まで以上に強く、そして、よくなっていく...

YMCA はこのことに全力で取り組んでいきます。

